

# 実行委員会ニュース

発行 首都圏高校生集会実行委員会

<http://syutokenko-ko-sei.jimdo.com/>

創刊号

## 実行委員会の経緯

私たちの会の前身は、「定時制の灯を消さないで！」首都圏集会実行委員会として各地の「定時制高校を守る生徒の会」が集まってグループを作ってきました。全国で定時制高校の再編整備計画（以下統廃合と記す）が行われ生徒の学びの場が削減されてきました。埼玉、東京、茨城、川崎、横浜、千葉の高校生が月に一度会議を開き集会も各地で開き多くの人に訴え学習権保障の共同が広がりました。統廃合が進むにつれて各地での運動に焦点が置かれ首都圏での共同活動が出来ませんでした。学習権の保障は定時制だけでなく全日制、通信制、私立にとっても重大で緊急な問題であり連絡の取れる過去のメンバーに連絡を取り2008年から準備会議を開催し現役生が参加する「お金がないと学校に行けないの？」首都圏高校生集会実行委員会を名称にして活動することになりました。

## 2009年夏の第一回集会

2009年7月26日埼玉県三郷市にある鷹野文化センターで大集会を開きました。この集会参加を呼び掛けるパレードを7月19日（日）行いました。7月19日（日）夕方、渋谷駅周辺で「お金がないと高校に行けないの！」「高校の授業料を無償にして！」という高校生の声が熱く響きわたりました。歩道にあふれる人々は、高校生のパレードに顔を向け、歩行者の中から「専門学校の学費も高いから…」という声も聞こえました。

大集会では、高校生によるダンスや劇（アルバイトの実態と労働基準法による）、パネルディスカッションなどを行いました。私たちが全国の高校生に協力していただいた「生活費アンケート」の結果を報告しました。当時7月23日までに集まった集計（10道府県2092名）の結果の紹介をしました。家庭の経済状況を気にしている生徒



が4人に3人いることが分かりました。パネルディスカッションでは全日制、定時制の生徒、父母の立場から教育費についての発言があいつぎ、経済的理由で学業を断念しなければならない状況などの話が出ました。また定時制の生徒からは「給食が唯一のバランスのとれた食事で命綱になっている友だちがいる」などの発言がありました。最後に坂本九さんの「見上げてごらん夜の星を」を歌いました。数多くの高校生が参加しての交流が出来ました。その後、新聞でこの集会のことを知った自動車会社の社長から「定時制の生徒を雇用したい」などという反響がありました。

## 2009年冬 映画「ワカラナイ」試写会とディスカッション

11月1日（日）映画「ワカラナイ」（若者の貧困をとらえた映画）の公開前に首都圏高校生集会実行委員会の高校生の声を聞きたいとのことで「ワカラナイ」の試写会と上映後に交流会を行いました。『ワカラナイ』を観てどうでしたか？という質問に「胃が痛いです（笑）」「最後のほうは感動しました」「お母さんが辛いとか死にたいとか言っていたけれど、俺だって辛いんだよとか、何で俺ばかりこんな辛い目に遭わなくちゃいけないんだよとか普通は思うと思うんだけど、どうにかしようとかがんばっているのは、やっぱりお母さんを嫌ってなかったからだと思う。なんでこんな家庭に



「ワカラナイ」公式HPより

生まれたんだろうとか、こんなところで生まれたくなかったという思いもあるはずなのに、主人公はすべてをがんばって必死だったから、強いなと思った」「主人公が弱音をはかなかつたのは、やっぱり頼れる人がいなかったからというのもあるし、信じられる人がいなかったから。いつ自分たちがこうなるか解らない。もしかしたら私たちがこういう環境になっていたかもしれない、それとも明日そうなるかもしれない。お金のことばかり社会に問い詰められてしまうようになってしまう。そういういたしかたない現状があるけれど、ホームレスなどに偏見のあるいまの世の中と日本のなかで、貧困やお金のない若者たちがどういう思いで、どういう状況でそのようになってしまうのかが描かれている。そのような偏見が取り除けるかもしれない映画だと思いました」「僕の母親は病気で、兄2人で支えてるのですが、主人公と重なる部分もあるかもしれないけれど、不思議とそうでもなかった。どんな状況でも、僕の母親はそういう悪いことに手を染めることを激しく嫌っていたので。でも考えさせられるところがありました」「主人公はレジ操作で犯罪をしているけれど、親が病気で寝たきりで働いて、それで食いつながるのがやっとみたいな状況で。それが発覚して友達のクラスメイトを突き放したりっていうシーンがあったけれど、もっと冷静に自分も対応したり、もっと周りの人が助けることも必要だと思うし。でも、どうしていいのが解らないというのがいちばん大きなことだと思う」と発言しました。（映画「ワカラナイ」公式ホームページより一部掲載）

## 2009年冬 集会&パレード

私たち実行委員会と大阪の「大阪の高校生に笑顔をくださいの会」はじめ全国の高校生約60名一般20名位で「高校生の声を国会に届けるクリスマス行動」を行いました。国会議員会館での集会では予定時間を大幅に超えるほど高校生の発言が相次ぎました。「学びたいと思ってもいけない生徒がいる定時制高校をなくさないで」「『生活苦で学校とバイトの掛け持ちでは生活できない妹には大学まで行かせてあげたいからフルでバイトするために学校をやめる』と言って学校をやめた友だちがいる。」などの発言が出されました。大阪、兵庫、京都、神奈川、東京などから参加した高校生が次々にマイクを握り、「高校の学費無償化にむけ高校生の実態を直接聞いてください」とリレートークしました。2009年私学助成が削減され、私学の学費が値上げされ、公立高校の倍率も跳ね上がったうえ、定時制高校の受験者が定員をオーバーになったため、高校に行けなかった人もでてしていると指摘、「学費



に苦しんでいる生徒はごく一部のことでない。私学も無償にしてほしい」と訴えました。母子家庭や定時制高校に通う生徒たちは「高校生はみんな輝いている。その輝きを閉ざしてしまわないでほしい」「学費で苦しみ、未来をあきらめてしまう高校生が1人でもいるのはいやなんです」と発言しました。集会には与野党の国会議員が参加。目頭をハンカチでぬぐいながらリレートークを最後まできいた日本共産党の宮本岳志衆院議員は「みなさんの思いは全国の高校生の声だと思って受け止めた。胸がいっぱいになり、涙があふれるのを抑えられ

なかった。みなさんの声を国政に反映させ、ともにがんばりましょう」と激励してくれました。多くのマスコミ関係者の皆さんが集会に来られていましたが多くの報道陣の方が高校生の熱い言葉に胸を打たれメモが取れないなどと後々発言がありました。集会後、厚生労働省前に移動し「高校卒業してもま





もな仕事に就職出来ない、なんとかして」「奨学金を借りてますが就職できるか心配で、就職できなかったら返済しようにも出来なくなる」などとリレートークしました。その後、若者の街渋谷に移動してパレードを行いました。

「お金がなくても学校行きたい。高校生に笑顔をください」。クリスマスの街に高校生の元気な掛け声が響き渡りました。サンタやトナカイ、妖精にふんした高校生ら約80人が、私立高校の学費無償化などを求めてパレード。携帯電話で撮影されるなど沿道から注目を集めました。大阪と兵庫、京都の高校生22人はカンパを集め、深夜バスに乗って東京に来ました。生徒会でメッセージを100人から集めた大阪府の私立高校2年生の2人は「いつもいいかげんな男の子が真剣に書いてくれました。道端でみんなの思いを叫ぶことができたことを生徒会の人に報告したい」と話します。埼玉県立高校定時制の2年生は家族の生活を支えるためにバイトを重ねて体調を崩し、バイトをやめました。食事は学校の給食が頼りです。「定期代や給食費、修学旅行代が授業料よりも高い。学校に関することは無償にしてほしい」と語りました。トナカイの赤鼻をつけて、先頭で声をあげた「笑顔をくださいの会」卒業生で橋下知事（当時）と会談し涙を流しながら訴えた立命館大学生は「高校と大学の奨学金を合わせると返済は1000万円を超えます。返していきません。政府はもっともっと私たちの声を聞いてほしい。私たちはあきらめない。一緒に頑張っって国を変えていきたい」と、元気いっぱいでした。



## 2010年6月20日銀座パレード

「お金の心配なく学びたい」と全国から集まった高校生たちが6月20日、東京・銀座をパレードし、私立高校も無償にしてほしいと訴えました。37都道府県の180校から高校生1000人余と父母や教職員合わせて3200人が参加しました。パレードに賛同した私立学校は56校にのぼりました。各地域の高校生が和太鼓をたたいたり、沖縄の伝統芸能エイサーを踊ったり、バトンをまわしたりして、注目をあびました。「行きたい高校を選べるようにして」「高校生は無力じゃない 仲間を救え」などと書いた手づくりのプラカードや横断幕を持ってアピールしました。パレード出発前に高校生がリレートークし、経済的理由で退学した友達の話や私学無償化署名を集めるとりくみなどを紹介。岡山県の女子高生＝3年生（当時）＝は「進級時に授業料を払えず、督促状がきました」と切実な思いをのべ、「高校生は未来をつくる力があります。一人ひとりが集まれば大きな力になります。国を動かしましょう」と訴えました。パレードに参加した高校生は、「兄と入学時期が重なって入学金が用意できなかったため、兄が大学進学を1年延期した。同じような家庭が出てほしくない」（愛知県）、「経済的理由で友だちが公立に編入した」（東京都）と話していました。

## 2011年7月23日大討論集会

私たちは昨年夏（7月23日）首都圏高校生集会Ⅱを行いました。今回の集会は前回とは趣向を変え討論をメインにした集会にしました。サブタイトルを「教育費無償化は必要か」大討論集会として過去のアンケートを基にした高校生の高校生による高校生の声を聴く集会として開きました。最初「授業料無償化になったけど～ある学校の高校生の会話～」の劇をしました。その後アンケートの報告を行い、アンケートを基に各グループで討論して発表する形で行いました。（詳細はHPに掲載しています。）



# 院内集会に参加して

2011年9月14日「高校無償化」の見直しに反対し、教育費無償化の拡充を求める懇談会（衆議院第2議員会館多目的会議室）に参加しました。この集会は3月に起きた東日本大震災を受けて自民党や公明党などが《高校は義務教育ではないから即刻廃止しその分の費用を震災復興に充てるように》という見直しを要求する3党合意を基に行われました。集会には神奈川県の高校生も4名ほど参加し、高校生からの立場で「無償化は大変助かっている。この制度のおかげで安心して学校に行ける」「教育を受ける権利を守るために続けてほしい」などと発言がありました。中学の教員からは「中学生がお金の心配をせずに学校に行けるようにしたい」大学生からは「高校生の声を多く聞き取り私たちも力を入れていきたい」との発言がありました。様々な団体が参加して100名の参加で行われました。また日弁連からは会長声明「高校授業料無償の維持及び発展を求める会長声明」が出されました。



## 2011年冬 共同記者会見

12月14日文科省において給付型奨学金の実現を求める共同声明 記者会見をおこないました。埼玉、神奈川の高校生8名含む関係団体の方々が集まり記者会見を行いました。

生徒代表からは「お金がないと学校に行けないの」首都圏高校生集会実行委員会神奈川のNです。一年生の時はお金を借りて学校に納めました。二年生から授業料が無償になって本当に助かりました。無償にならなかつたら今頃高校をやめていたと思います。

「教育の無償化は必要か」高校生大討論会を今年7月に開催しました。討論のまとめると①授業料無償化は今後も続け、授業料以外にも無償化を拡大して欲しい。

- ②無償化になっても、経済的に困難な生徒がいます。こうした生徒にすみやかな対策をとって欲しい。
- ③定時制では学費や家計のためにダブルワークどころか四つの仕事を掛け持ちして働いている生徒もいます。
- ④教科書など授業に必要なものは無償にして欲しい。⑤入学時の納入金を少なくして欲しい。
- ⑥給付型奨学金制度が創設されれば夢がかなえられます。貸与型は借金です。世界の多くの国には給付型奨学金があります。給付型奨学金を創ってください。

「お金がないと学校に行けないの」首都圏高校生集会実行委員会埼玉のKです。全国2293人の高校生から「生活費アンケート」に協力してもらいました。「奨学金をもらいたい」「修学旅行費が高く参加できない」「病院に行けない」など高校生活に何らかの経済的不安感を持って生活している高校生が75.2%（4人中3人）もいることが



アンケートより明らかになりました。学費や生活費の全部あるいは一部を「バイトして自分で支払っている」生徒は通信制生徒49.7%、夜間定時制生徒が37.3%、昼間定時制生徒33.1%、全日制生徒19.6%もいました。

学費のためにアルバイトを50社受け、アルバイトが見つからない5ヵ月間は滞納が続き、退学になるのではと不安でした。夜間定時制生徒で「奨学金をもらっている」生徒は5.6%です。「奨学金をもらいたい」という生徒は2.5倍の12.5%もいました。給付型奨学金を創設してください。」と発言しました。